



坪井孝仁 議員

Takahito Tsuboi



3月定例会

質疑・討論

トピックス

一般質問

委員会視察

追跡

Q. タウンバスの利便性の向上を A. まずは北ルートを変更

地域公共交通の維持、改善は交通分野の課題解決にとどまらず、「まちづくり・観光」さらには「健康・福祉・教育環境」の様々な分野で大きな効果をもたらす。豊山町には4つのバス路線がある。なかでも「とよやまタウンバス」の更なる利便性の向上が求められている。特に青山地区においては、他のバス路線が乏しく以前から利便性の向上を望む声が多くあった。

アポルトウォークへ出かけるための公共交通を検討すると答弁があった。動線を結ぶのであれば「とよやまタウンバス」と結ぶではどうか。

産業建設部長

「とよやまタウンバス」北ルートの伊勢山交差点からアポルトウォーク間を平成30年4月1日から1年間、試行的に乗り入れる準備をしている。運行本数やダイヤの変更については、広報やバス車内などに掲示してお知らせする。

産業建設部長

エアポルトウォークをバスターミナル化するために南ルートも繋いでいる。

産業建設部長

南ルートは、主に町民の通勤通学や買い物に利用されているため、所要時間が増し利便性が損なわれると考える。今のところ南ルートについては考えていない。



▲新設されたタウンバス停留所

駅には、様々なお店や病院が集約している。北ルートを小牧駅まで延伸しては。

産業建設部長

既存の路線と競合することになり事業所間の調整が難しい。

産業建設部長

前回の改正から10年経過している。バス停全体の見直しはないか。

産業建設部長

利用者の利便性向上や道路状況、交通事情等をよく考えて必要に応

じて検討する。

住民アンケートでは、本数や運行時間を充実してほしいという意見が多数あるが。

産業建設部長

運行本数・時間を拡充すれば利便性が向上することは承知している。しかし、本町の財政負担とのバランスも考慮すると慎重にならざるを得ない。現時点では現行のままにご利用いただきたい。